

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和6年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.1-	
重点項目	学習活動【その1】
重点課題	学習習慣の確立と単位修得
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の家庭環境や生育歴などが多様で生活力・体力・学力の格差が大きい。 発達障害等の健康面や適応性の問題など様々な経緯により入学・転入編入する生徒が大多数である。生活習慣の確立と日々の学習活動が単位修得率に大きく関連している。 専攻科では生徒の知識・関心の度合いに差が大きく、一斉指導が難しい。実習において作業工程をしっかりと理解できない生徒が増加している。 昨年の単位修得率は、定時制・昼間単位制が86%、夜間単位制81%、通信制が57%（前期）、専攻科では92%（学年末）となっている。
達成目標	<p>単位修得率</p> <p>【定時制】前期末集計 80%以上 *昼間単位制・夜間単位制共通 【通信制】前期末集計 60%以上 【専攻科】学年末集計 100%</p>
方 策	<p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席率を向上させるため、健康面や学習状況に応じて教員間の連携や保護者への連絡など早期対策を行う。 年次担任を中心に生活指導や進路相談を充実させる。 不登校傾向など問題を抱える生徒に対してカウンセラーなど専門家や外部機関との連携を強化し、単位修得や進路目標を意識づける。 多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びを実現する方法について検討する。 <p>【通信制】</p> <ul style="list-style-type: none"> スクーリングや個別面談を通して生徒の学習状況を把握し、適切な助言や添削を行い、自学自習の意欲向上と定着を図る。 レポート提出前の個別指導や科目担当者との面談をより充実させ、学習達成度に応じた学習指導をきめ細かく行う。 学習活動が円滑に進められるようにガイダンスやホームルーム活動を通じて、気軽に相談できる環境を整え、目標に応じた学習に取り組めるよう支援する。 <p>【専攻科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の家庭環境や生活状況について調査した上で個々の学習目標と特性を把握し、効果的な学習指導を行う。 実習での予習と復習の時間を設定し、学習効果と実技の定着度向上を図る。
達成度	<p>【定時制】[昼間]単位修得率 (84.9%) (前期) [夜間]単位修得率 (85.8%) (前期) 【通信制】単位修得率 (60.9%) (前期) 【専攻科】単位修得率 (98%) (学年末)</p>
具体的な取組状況	<p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期欠席等の様々な問題を抱える生徒に対し、早期に状況等を把握しスクールカウンセラー等の専門家や外部機関と連携し対応を図った。 出席状況見える化するため、生徒出席状況一覧表を作成しホワイトボードに掲示することで、職員間での情報共有を図り指導にあたった。（夜間） 実務代替による単位認定を見直し次年度より実施することとした。（夜間） <p>【通信制】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート提出前の個別指導や、スクーリング・レポート作成時にNHK高校講座等を活用するなど、生徒の理解度を確認しながら、学習意欲を喚起した。 転編入生徒や復活生に対してガイダンスや面談を実施し新たな学習環境への適応を支援した。 通信制における学習方法は中学校や全日制高校と大きく異なる。そこで学習リズムの定着を図るため、自分のできる範囲での単位の修得を目指す指導をした。このため単位を1単位以上修得した生徒の割合は71.7%と高い数字を得た。また自分の学習に自信を持った生徒も見受けられた。 <p>【専攻科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の出席や学習状況について教員間の連携を強化し、気がかりな生徒には、保護者への連絡や個別面談を早期に行った。 実習において自学自習の時間を設定し、学習効果の向上と技能の定着を図った。
評 価	B ・ほぼ目標値を達成することができた。
学校関係者意見	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの課程で単位修得率が令和6年度の目標にほぼ到達しており学校側の様々な取り組みの成果が表れていると感じる。 目標に対する達成度は生徒へのきめ細やかな個別対応が功を奏したのだと考える。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 単位修得率向上のため、入学前の面談、受講ガイダンスを充実したい。 多様な方法での単位習得の方法を検討したい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなつた)

令和6年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.2-

重点項目	学習活動【その2】				
重点課題	読書習慣の定着				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 図書館利用者数のべ数が4,180人（前年度3,769人）となり400人程度増加した。 年間読書数は27.2冊/人（昨年度14.9冊/人）に増加した。 図書館利用状況や読書数が増加しているが、特定の生徒が繰り返し来館して多数の本を借りていることも数値に影響を与えており、より多くの生徒が継続して図書館を利用し、読書習慣を身につけているかは不明である。 				
達成目標	年間2回以上図書館を利用する生徒数の増加				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 新入生を対象とした図書館オリエンテーションの実施について、内容を各課程に周知し、実施してもらう。 読書感想文・感想画どちらかの方法で感想をまとめたものを掲示するなどし、相互に認め合う一体感と、読書への充実感をもたせる。 年2回、生徒に図書館の利用状況に関するアンケートを実施する。利用状況に合わせて生徒目線にたった図書のレイアウトを工夫したり、新聞・雑誌の購入を検討したりするなど、親しみやすい図書館づくりをめざす。 話題性のあるタイムリーな本や雑誌の紹介等の取り組みをして、生徒の興味関心を喚起する。 図書委員会と連携し、生徒の負担軽減をしつつ、かつ楽しく達成感のある委員会活動を展開して、図書館運営の活性化を図る。 図書の選定においては、各教科担当者等の意見を尊重しながら、広い視野に立って年間を通して計画的に購入する。 				
達成度	2回以上図書館を利用した生徒の数 【昼間】38.9%【夜間】50%【通信】19.4%	図書館の利用回数が増えたと答えた生徒 【昼間】29.1%【夜間】33.3%【通信】50%			
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 図書館オリエンテーションの実施について周知ができなかった。 読書感想文・感想画コンクールでは、感想画を選択しやすくすることで感想画を応募した生徒が16名と倍増した。学園祭で入賞作品の発表を行い、学園祭及び学園祭後に受賞作品を掲示した。 生徒アンケートの結果から、開館カレンダーや利用の仕方についての掲示をおこなった。また、図書館行事の一つである教養講座の対象を昼間生徒のみから全課程生徒に広げた。 図書委員会では、生徒の負担軽減をしつつ、自分の役割を果たすことができるという実感を得られるように通常業務、学園祭準備とともに、係活動の設定を行った。 図書の購入は、司書が計画する一般図書に加え、年3回のSLBA選書と年1回の教科用図書の購入について全教員に希望を取ったり、生徒からアンケートを取ったりし、図書担当者会議で選定を行った。 				
評価	C	<ul style="list-style-type: none"> 前期・後期のアンケートで2回以上図書館を利用したと答えた生徒の数の割合に大きい変化がなかった。 少数ではあったが、アンケートで、図書館カレンダーや図書館の利用の仕方に関する掲示を見て図書館を利用したと答えた生徒がいた。掲示物を認知していない生徒も多く、周知する方法を考える必要がある。 図書館を利用したHR活動・学習が推進できるようにしていくことが課題である。 			
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 動画主体の今の高校生の活字離れが気になる。生徒が本や図書館に興味を持つためには、生徒目線の取り組みが必要だと思われる。 				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 図書館オリエンテーション等を通じて生徒が不安なく図書館を利用できるようにすることで、生徒が本に触れる機会を増やせるようにする。 気軽に図書館にかかわることができるようなイベントを行い、本や図書館に興味を持つことができるようになる。 図書を利用したHR活動・学習が推進できるよう教科・年次・特活と連携を図る。 蔵書点検時に廃棄基準に該当する図書の把握を的確に行い、複数年単位で計画的に更新することで、より多くの生徒が図書館を使用できるようにする。 				

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなつた)

令和6年度 雄峰高等学校アクションプラン －No.3－

重点項目	学校生活 【その1】	
重点課題	生徒の自律性・主体性の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 本校に在籍する生徒は、小・中学校で教室に入れなかった、または入らなかつた生徒が多く、集団に入ることに消極的だったり、集団内で求められる行動ができなかつたりするなど、集団の中での生活・行動が苦手な生徒も多い。また、規範意識が十分に育っていない生徒も見受けられる。 自己肯定感が弱い生徒が多く、周囲の言動に影響されやすい。そのことが問題を引き起こすこともある。 高校入学を機に、自分の目標を定め、学び直そうと地道に努力している生徒も多い。そのような生徒たちを後押ししたり、支えたりする雰囲気を作り出すことが求められる。 	
達成目標	<p>自律的な行動を通して自己肯定感を獲得する生徒の増加</p> <p>各課程の様々な教育活動の場面や学園祭等の学校行事において、自律的な行動が意識的に行われ、生徒が成功体験を通して自己肯定感をより高めること</p>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 昼間単位制では、生徒会が校則（生徒心得）を検討し、守るべき規範は何かを考える中で、その改善案を教職員と協議し、協議した内容を生徒全体に還元する中で意識を高める。 夜間単位制では、生徒会や各種委員会、学校行事などの特別活動を活性化させる中で、生徒の自己肯定感を涵養するとともに、T P Oに応じた服装を主体的に考えたり、ルールやマナーを身につけたりする機会を持つ。 通信制ではスクーリング登校時に、学校行事やホームルームに参加することで、社会性を養い、多様性を身につけ、自ら学習する態度を培う。 とりわけ、全ての課程の生徒が一同にそろう学園祭では、ルールやマナーを意識しながら行事を楽しむことができるよう呼びかける。 生徒の変容がわかるように、学校生活についてのアンケートの設問を工夫する。 昨年度の反省を踏まえ、守れなかつたルールやマナーの主なものを選び、電子掲示板等でマナーアップを呼びかける。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 学園祭等の学校行事において、生徒実行委員会を中心に計画的に準備し、各企画が成功するよう協力して取り組んでいた。 マナーアップや問題行動の抑止に向けて積極的な生徒指導を行うことができた。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 昼間単位制では、生徒会が夏服（ポロシャツ）の変更を提案し、教員と共に夏服検討委員会を立ち上げ、協議を始めている。 夜間単位制では、人間関係の構築を目的に今年度初めて「P・A（プロジェクト・アドベンチャー）」を取り入れた。また、生徒指導に関する教職員の共通理解をはかる機会をもつことができた。 生徒昇降口のポスターを、時宜にかなつたものを厳選し掲示するなどの工夫をすることができた。さらに、不審者情報や器物破損などの問題行動について掲示し、生徒に注意喚起をすることができた。 	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活がよりよいものになるよう、生徒会を中心とした主体的に考え、行動する生徒が増えてきた。 積極的な生徒指導が注意喚起、問題行動の抑止、自律的な行動につながった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> N P O法人花街道薬膳のまちを夢みる会や富山青年会議所と連携した取り組みの新聞記事、学園祭の折に地域の方が多数来校されていたことから、地域の大切な学校になっていることがわかる。学園祭では接客マナーもよく、明るく自律的な行動を見ることができた。 どんな小さな意見でも言える、聞いてもらえる、そんな環境がほしい。 「チーム学校による生徒指導体制」について、生徒指導と教育相談が一体となった支援について、実践・検証していくことが求められている。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> S CやS S W、特別支援コーディネーター、養護教諭と生徒指導部が連携し、課題未然防止に向けてどういった取り組みができるかを検討する。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなつた)

令和6年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.4-

重点項目	学校生活 【その2】				
重点課題	基本的生活習慣の確立（睡眠）				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・質のよい睡眠をしっかりととることは、その日の肉体的・精神的な疲労の回復にとって重要な要素である。しかし、本校の少なからぬ生徒が、不規則な生活習慣や精神的ストレスなどから、よい睡眠をとれていらない実態がある。 ・体調がすぐれず保健室へ来室する生徒たちの中には、睡眠不足と見られるものも多い。ゲームやSNS（X=旧ツイッター、インスタグラム、ラインなど）のためのスマホの長時間使用や、アルバイト等と学校と両立の難しさから睡眠時間の確保ができないという生徒もいる。 ・プロフィールカード調査の結果などから、よい睡眠がとれないと自覚している生徒は60%におよんでいる。 ・生徒の多くが、質のよい睡眠をとれるようになり、心とからだの健康を目指すことを課題目標とし、よい睡眠をしっかりとれる方法をともに考え、実行していく必要性がある。 				
達成目標	<p>生活習慣の確立（睡眠の改善）</p> <p>70%以上</p>				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒へ睡眠に対する実態調査を行い、現状と課題を明らかにする。 ・外部講師による講義の機会を設け、睡眠について学習し、改善方法・対処法を考え、よりよい睡眠をとろうとする意識を高める。 ・保健室前の掲示板を活用し、生徒の興味関心を引くような掲示物を作成し、睡眠の大切さについて知らせる。 ・毎月発行している保健だよりに、睡眠をテーマにした記事を連載することにより、睡眠についての知識、情報を得る機会とし、睡眠について興味関心を持たせる。 ・取り組み後に生徒へのアンケートを実施し、その結果を考察し次年度に活用する。 				
達成度	<p>30%</p> <p>12月の調査で、7月と比較して睡眠が改善したと感じている生徒の割合は約30%にとどまった。就寝時刻が早まった生徒は多く、睡眠時間は長くなったものの、毎日ぐっすり眠れている生徒の割合が減った。</p>				
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対して睡眠についての実態調査を7月と12月に行い、実態と変化を確認した。 ・9月に外部講師による講座を設け、睡眠の改善方法・対処法を考え、よりよい睡眠をとろうとする意識を高めた。 ・11月の学園祭で、保健室前の掲示板を活用し、生徒の興味関心を引くような掲示物を作成し、睡眠の大切さについて知らせた。 ・毎月発行している保健だよりに、睡眠をテーマにした記事を連載することにより、睡眠についての知識、情報を得る機会とし、睡眠について興味関心を持たせた。 				
評価	C	<ul style="list-style-type: none"> ・就寝時刻が早まり、睡眠時間が長くなったが、スマホの使用や悩み等で熟睡できない生徒が増えた。 			
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・規律正しい体内時計が作られたらよい。簡単な改善方法、①朝日を見る習慣、②就寝1時間半～2時間前の入浴。 ・睡眠については、社会人になるとその大切さを実感する。今後とも睡眠について興味関心を持たせるような取り組みを継続していただきたい。 				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・寝る前にスマホを使用する習慣の改善など、睡眠についての興味関心や意識を高める取り組みを行う。 ・精神的な問題を一人で抱えずに、他者に相談しながら和らげる方法を伝える。 				

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなつた)

令和6年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.5-

重点項目	進路支援				
重点課題	進路実現をめざす支援活動				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意識が卒業することにだけ向きがちで、卒業後の進路まで考えさせる指導が必要である。 進路決定に必要な知識や情報が不足している生徒が多く、進路意識を向上させる必要がある。 進路志望に毎年ばらつきがあり、年間の一斉の進路指導が行いにくい。 昨年度の達成度（3課程平均 93.1%・専攻科 84.2%）は、達成目標を下回っている。 				
達成目標	<p>年度末での進路先決定率 ※就職に関しては志望が明確で就職活動を行う生徒を対象とし、進学に関しては第一志望に限定しない。</p> <p>90%以上</p>				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査などを通じて早いうちから卒業後の進路について考えることにより、受講登録など学習計画に反映させ、進路実現を行えるよう支援する。 進路について考えさせる機会を工夫し、進路意識の向上を図る。 オープンキャンパスや応募前職場見学などに積極的に取り組ませ、進路意識を高める。 				
達 成 度	<p>年度末での進路先決定率（令和7年3月18日現在） 3課程平均：90.82%（昼間：100.0%、夜間：100.0%、通信：76.7%） 専攻科：90.0%</p>				
具体的な取組状況	<p>○進路について考えさせる機会を増やすため、卒業年次（3・4年次）と2年次に講義や体験の機会を増やした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業年次生を対象に進路説明会（模擬授業を含む）を6月20日に実施した。 求人票閲覧システムを導入し、自宅で求人票の閲覧が可能となった。 2年次生を対象に進学説明会を11月19日に実施した。 2年次生を対象に卒業生の助言を聞く進路ガイダンスを2月12日に実施した。 				
評 値	C	<ul style="list-style-type: none"> 進学については一般選抜まで粘り強く取り組む生徒がおり、個別支援を継続している。 求人票閲覧システムを導入し、卒業前の年次にも取り入れている。 			
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 決定率の低さが気になるので、引き続き学校の支援をお願いします。 1年次から、夢のある人生について考えさせて欲しい。 				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じた個別指導の工夫改善が必要である。 進路情報の提供方法の工夫が必要である。 				

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度 雄峰高等学校アクションプラン

-No.6-

重点項目	特別活動				
重点課題	生徒が主体となる自主的な特別活動の推進				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動を効果的に行うための時間の確保が困難である。 生徒の中には集団活動が苦手な者もおり、学校行事への参加に必ずしも積極的でない傾向がみられる。そのため参加形態や内容の工夫が必要である。 日程や校時の相違から、各課程間の交流の機会が極めて少ない。 				
達成目標	① 学園祭に参加した生徒の満足度	② 生徒の主体的な地域交流、ボランティア活動を実施			
	85%以上	年5回以上			
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学園祭では4課程合同の企画を推進し、県民カレッジおよび、各課程間の相互理解を深めるとともに、多くの生徒が意欲的に取り組むことができるよう内容を考慮する。また、学園祭事後アンケート項目について、一層の工夫を加え、生徒の満足度や問題点を分析する。 生徒会執行委員会と各種委員会との連携を深め、活動内容を増やすことで、生徒会活動をより活性化させ、生徒の自らの判断する力を育てる。 地域との交流活動等、校外での自主的活動の機会を積極的に増やし、協働・共生していく姿勢を育てる。 				
達成度	① 91.9%	② 8回実施			
具体的な取組状況	<p>① 4課程から生徒学園祭実行委員会を組織し、生徒主体でテーマ・ポスターの募集や共同企画として「アンブレラ・スカイ」を行った。また、学園祭後に生徒アンケートを実施した。</p> <p>② 地域交流活動として、愛宕地区の「春のフェスティバル in あたご」(5月)、「こども餅つき大会」(12月)に参加した。また、環境整備活動として、「花街道プロジェクト」に参加し、県庁前公園花壇(6月)、城址公園前花壇(6、9、11月)、くれはなガーデン(9、11月)の整備を行い、活動回数はのべ8回であった。</p>				
評価	A	<p>① 学園祭に関する意識調査によれば、「学園祭に参加して満足したか」の設問に関し、「強く思う」37.9%(前年度39.5%)、「思う」54.0%(前年度54.8%)と、前年度とほぼ同様の結果であった。</p> <p>② 目標値を達成するとともに、今年度は生徒会執行委員会だけでなく、多くの生徒有志が主体的に参加した。</p>			
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な地域交流は伝統となっている。 環境整備活動では、生徒がブロックや花の並べ方をみんなで協議しながら楽しそうに進めしており、印象的であった。 				
次年度へ向けての課題	<p>① 学園祭の意識調査では、「積極的に参加(事前準備含む)できた」(92.6%)、「他の生徒と協力(事前準備等を含む)できた」(94.6%)という結果から、それぞれのクラスで主体的、協働的に活動した様子が窺える。今後も参加者各自が所属するクラス、委員会等で主体的に参加できる工夫を凝らすと共に、所属クラスを越えて楽しめる企画や、他課程との合同企画を推進するなど、クラス、学年、課程を越えた協働を意識した行事となるように取り組んでいきたい。</p> <p>② 地域交流活動においては、参加生徒の地域への愛着をより深めるとともに、愛宕地区の住民の方々にも、本校生徒を理解していただける場面になるように取り組んでいきたい。環境整備活動については、生徒、教職員とも無理なく持続的に活動するために、水やり、草むしりなどの育成管理の仕組み化や、他校・外部団体と連携した協働整備などを推進したい。また、校内的には生徒会壁新聞を設置し、ボランティア活動の様子を生徒、教職員に伝えたが、今後は校外にも本校HP等で活動の様子を発信したい。</p>				

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった)